

○研究会  
「百貨店の経営に関する歴史的研究」

開催責任者 経営学部 中島 裕喜

2023年11月18日

南山大学J棟J54教室



研究会は以下のとおり、開催された。

◇研究目標

百貨店経営に関する歴史的視点からの研究を深める。

◇報告者および題目

【報告1】岡野純司氏（愛知学院大学商学部准教授・南山大学経営学部客員研究員）

報告タイトル：「百貨店における取引慣行の実態分析：戦前期の返品制と委託型出店契約」

【報告2】菊池満雄氏（J.フロント リテイリング史料館 フェロー）

報告タイトル：「デパートを創る」

コメント：藤岡里圭氏（関西大学商学部教授）

・ 司会：中島裕喜氏（南山大学経営学部教授）

◇研究会の討論内容

第1 報告者の岡野氏は南山大学社会科学部研究科博士後期課程に提出した博士論文の内容をベースに、さらに調査を進めた内容を報告した。百貨店における仕入れの形態は、基本的に買取仕入、委託仕入、売上仕入に区分され、百貨店経緯の歴史的推移の中でその比重は変

化してきた。戦前期に百貨店の出店形態が変化したことが買取仕入から委託仕入への変化の端緒となったことが紹介され、百貨店経営におけるヒトや情報などの経営資源の不足が納入業者によって補われる互恵的な関係が存在したことが明らかにされた。一方で、委託仕入は百貨店経営のマーチャンダイジングの力を衰退させる影響があったと指摘する先行研究を踏まえながら、完全買取仕入の利用が百貨店の独自性を今後創出していくうえで不可欠であるという結論を述べて締めくくった。

第 2 報告の菊池氏は松坂屋の歴史を創業家の伊藤家との関連から長く考察し、史資料の発掘に努めてきた。その活動について報告した。百貨店経営の成否には立地が重要な役割を果たすことから、いとう呉服店から松坂屋へと大きく業態を転換した伊藤祐民の意思決定について、社史には記載のない様々なエピソードを披露された。

コメンテーターの藤岡氏は両氏に対して個別に質問を投げかけ、とくに第 2 報告の菊池氏に対して、近年の百貨店は合併の際に歴史的資料を廃棄する傾向にあるが、現在の松坂屋では大丸との合併の際にどのように対応したのかといった史資料の保存に対する企業の態度を問う質問があった。その後、フロアから韓国における百貨店の動向についてのコメントなどがあり、盛会のなかで研究会は終了した。